

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	海南高等学校美里分校	河本好史
学校所在地		
〒 640 - 1474 和歌山県海草郡紀美野町毛原中 6 8 9 Tel 0 7 3 (4 9 9) 0 0 3 fax 0 7 3 (4 9 9) 0 5 5 4		
担当者名		担当教科
岡田 博行		社会
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は、高野山の西麓に位置する紀伊半島中央部山間地域の海草郡紀美野町毛原中にあり、近くには国道 3 7 0 号線が走っている。地域は、豊かな自然の素晴らしい環境に恵まれているものの、高齢者の人口比率が高く、過疎化がかなり進行した山村である。地域の児童、生徒数も減少している。</p> <p>本校は、昭和 28 年に地元の熱意が実って小規模分校（1 学年 1 学級）の和歌山県立大成高等学校の分校（昼間定時制）として設立された。その後、昭和 3 2 年に全日制に移行し、平成 2 2 年 4 月には、大成高等学校美里分校から海南高等学校美里分校に校名を変更し、現在に至っている。</p> <p>教育方針は、「分校の窓から世界が見える」「一人一人を生かした教育」「地域に根ざした教育活動」を基本として、地域のカーブミラー清掃、高齢者交流ゲートゴルフ大会など他校にはない地域密着型の行事を多く取り入れている。ただし、近年は地域の生徒数減少に伴い、海南市、岩出市・紀の川市の生徒が大半を占め、へき地教育の拠点とともに、都市部の学校で不登校の経験をするなど大規模校になじまない生徒の教育の場としての役割を担うようになってきている。このような状況の中で、教職員は「小さいことは良いことだ。」の伝統をもとに、小規模校の特性を生かす指導を目指して努力している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1～3 年生 39 名	5 名 職員 11 名	高野山中央公民館、壇上伽藍、奥の院
実践研究テーマ		
世界遺産としての高野山を知り、その素晴らしさを体感する		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習 「ライフスタディ」	高野山を体験しよう	
<p>〔キーワード〕</p> <p>世界遺産学習、 郷土学習 体験学習</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <p>(1) 宗教都市として発展してきた高野山について、歴史や地理的条件を学び考察する。</p> <p>(2) 世界遺産についての知識を深める。</p> <p>(3) 世界遺産マスターの説明を聞きながら、高野山の奥深さを体感する（現地学習）</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 8 時間 （「世界遺産を学ぼう」 最新現代社会 2 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>和歌山県世界遺産センター・・・世界遺産入門 次世代育成事業(現地学習)</p> <p>高野山世界遺産マスター・・・次世代育成事業(現地学習)</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. ユネスコ世界遺産センターの誕生について知ろう。 2. 世界遺産リスト登録手続きについて学ぼう。	・世界遺産条約の基本的な考え方の歴史的な流れと、世界各国の遺跡保存に向けた取り組みの具体例を提示する。	観察
2	3. 日本の世界遺産を知ろう。	・世界遺産の分類（文化・自然・複合の違いについて）を学習する。	観察
3	4. 高野山の歴史について学習する。	・DVD等の教材を活用し、高野山の仏教都市としての繁栄について、地理的条件や歴史的背景に重点を置いて考察する。	ワークシート
4	次世代育成事業 5. 壇上伽藍～金剛峯寺までを、解説を聞きながら歩く。 6. 「世界遺産講座」で世界遺産について学習する。 7. 解説を聞きながら奥の院を歩く。	・建物の特徴等に注意して、壇上伽藍等で実際に見学する。 ・世界遺産センターの職員の方による「世界遺産講座」を受ける。 ・奥の院を歩き、世界遺産マスターによる詳しい説明を受ける。	ワークシート 観察
5	8. 事前学習と現地学習を振り返り世界遺産の学習の総まとめをする。	・世界遺産の講座や世界遺産マスターから現地で説明を聞き、気づいたことなど考えをまとめさせる。	感想文
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>成果 今回の学習を通して、身近な世界遺産である高野山について、建築様式や文化・歴史的背景など様々な角度で理解を深めることができた。和歌山県内であり、自らが通う学校の近くに世界遺産があることを再確認し、その内容を深く知ることによって郷土の魅力を味わうことができた。</p> <p>課題 高野山は、歴史、文化、建築様式、地理的条件など世界遺産として興味深い要素が多く、課題として深める分野は多岐にわたる教材である。今後は、今回の学習で深めた内容をもとに、他の世界遺産や地域の特徴ある素材などを要素ごとに比較、考察する思考力の向上につなげる教材として考えていきたい</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>(1) 歴史の学習において、様々な世界遺産の基礎・基本を学んだ上で、高野山について現地学習することで、身近な地域の世界遺産の魅力を知り、自らの地域に誇りを持つことにつながった。</p> <p>(2) 世界遺産センター職員や世界遺産マスターの方々と同行し、対話することで双方向のコミュニケーション能力を育成できた。</p> <p>(3) 世界遺産を中心とした郷土の素晴らしさを現地学習を中心としてまとめ、さまざまな人々に発信できる力を身につけた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>グローバル社会を生きていく資質として、コミュニケーション能力の育成が必要である。他者と活発なコミュニケーションを取るには、語学力とともに魅力的な話題の提供も大きな要素となる。郷土の世界遺産は、世界全体で共有することができ、非常に有効な題材と考えられる。このような題材が身近にあるので、今後も充実した現地学習として進めていくことは大きな意義があるといえる。</p> <p>また、今回の学習では、世界遺産マスターとして地域の方々を有効活用した学習会であった。世界遺産学習では、今後も地域の方々を巻き込んで生徒の学習と地域の活性化をはかるような取組が必要と考える。</p>			

様式 2

平成29年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

生徒の感想より

「世界遺産センターの方々にお世話になって、全校生徒で高野山へ勉強に行きました。午前中は壇上伽藍、根本大塔、金剛峯寺を見学しました、それぞれのお寺の成り立ちや火災の時を考えて水を蓄えていることなどを学習しました。その後、公民館において世界遺産センターの先生から世界遺産についての講義を受けました。世界中にはたくさんのお寺や世界遺産があり、自然遺産や文化遺産などいくつかの分野に分かれて指定されていることなどを学習しました。

午後には奥の院で学習しました。奥の院には企業のお墓や歴史上の人物のお墓、一般の方々のお墓、屋根付きのお墓などたくさんのお墓があり、それぞれに歴史や様々な背景があることを学習しました。また、奥の院にはお墓だけでなく、顔が写らないと寿命が短いという言い伝えの井戸など興味深いものがたくさんありました。最後に、奥の院にお参りをしてバスに乗って帰りました。今回の学習は、1日ではあっという間に過ぎてしまい、まだまだお寺や建物の話を聞きたかったです。」



壇上伽藍 見学風景



世界遺産学習



奥の院 見学風景